

## 多読学習の取り組みについて

樟蔭中学校・高等学校英語科常勤講師 八木岳彦

### 1. はじめに

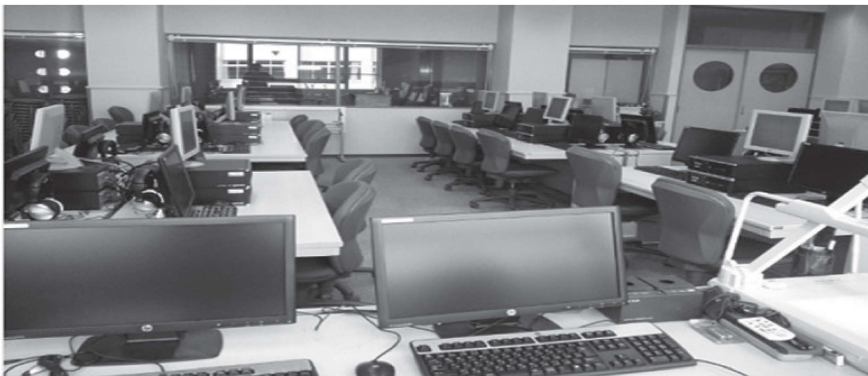
本校では、高校3年コース（進学・児童教育・健康栄養）において、昨年度よりカリキュラムに多読を入れ、その取り組みが始まった。多読とは、文字通り大量の英文を読むことである。日本のような教室外で英語に触れる機会がほとんどなく、英語を外国語として学ぶ EFL (English as a foreign language) 環境では、言語習得に必要な不可欠なインプットの量が圧倒的に少ない。そこで、インプットの量を確保するという点で多読が重要な役割を果たす。また、Day and Bamford(1998)によると、多読によってリーディングに対する前向きな態度が育成されると主張し、さらに、多読を通して自律した学習者、学習意欲の向上、英語力を高めることなどの成果が報告されている (Janopoulos, 1986; Hafiz & Tudor, 1989; Robb & Susser, 1989; Hafiz & Tudor, 1990; Grabe, 1991; Cho & Krashen, 1994)。

しかし、多読学習の効果は世界的に認められているが、実際にカリキュラムに入れ実践している教育機関はまだ多いとは言えない。その1つの大きな原因は、学習者が本当に本を読んだかをチェックすることが教員にとって大きな負担になることである。例えば、35人学級でそれぞれが本を読み、その都度本を読んだ感想を書くなどしてチェックをすとしても、膨大な量の仕事になることは容易に想像できる。そこで、本校では本を読んだかどうかをチェックするために、M-Reader と呼ばれるサイトを活用している。京都産業大学で開発され、運営されている多読学習記録を管理するプログラムである。パソコンから M-Reader のサイトにアクセスをし、読んだ本に関するクイズを10問受け、合格することにより読んだ本の語数が記録され、総語数として加算されていく仕組みになっている。不合格の場合、読んだ本が記録されていない。このサイトを活用することで、容易に学習者の多読学習をチェックすることができるのである。本校においても、このサイトは多読学習の取り組みを大きく支えているものである。

## 2. 本校での取り組み

本校の多読学習は、現在のところ授業内活動である。週1回50分授業の中で行っている。生徒は情報教室に行き、そこで管理されている多読本を選んで読む。読み終わったらパソコンでM-Readerにアクセスし、クイズを受ける。クイズの結果を確認し、また新しい本を選び、読み進めていくという活動である。

### 情報教室



### 多読本



### M-Readerの結果画面

Book title	Level	Status	Words	Total words
Sarah's Surprise	Level 1 [0]	Not Passed	0	6411
The Old Promise	Level 6 [2]	Passed	2634	9045
No, You Can't!	Level 6 [2]	Passed	2345	11390
The Dragon Tree	Level 5 [0]	Passed	294	11684

Total words read in this course: 11684

Total words read in all courses: 32320

現在、本校で所有している多読用の本は、Foundations Reading Library Level 1～7, Oxford Reading Tree Level 5～9, Building Blocks Library Level 4～9, I Can Read Beginning Reading 1, Penguin Active Reading Easystarts & Level 1, Henry & Mudge シリーズなど、学習者向けの graded readers や英語ネイティブの子供向けのものである。

大量のインプットを与えるということだけでなく、英語が苦手な生徒にも英語が得意な生徒にも無理なく読むことができるよう様々なレベルの本を用意、また飽きることがないよう様々なジャンルの本を用意し、多読活動が継続していけるようにしてある。

また、本校では高大連携の1つの象徴として「ランゲージ・パスポート」という英語学習の進行状況・到達度をチェックする記録手帳を生徒学生に配布している。そのパスポートにも読んだ本を記録するページがあり、樟蔭学園として多読を行っている。来年度より中学生にも配布予定である。

ランゲージ・パスポート



多読記録ページ

Extensive Reading		
Date	Title of the book	Words

以下に生徒の感想を紹介しておく。

- ・本を読むのが楽しい
- ・少しずつ読むスピードが速くなってきた気がする
- ・語数がたまっていくのが嬉しい
- ・多読の時間が好き
- ・家でも読みたい

### 3. 今後の課題

多読学習の取り組みの困難な点の1つは、費用にある。たくさん本を準備しなければ、多読を行うことは無理である。また、同じ本を複数所有することが必要であることも費用がかさむ要因である。英語科としての取り組みだけでなく、学校全体の理解が多読学習には求められるだろう。さらに、たくさん本を管理することも課題の1つである。この点も英語科だけでなく、情報科また図書館との協力関係を図って行うことが必要である。

本校での最も重要な課題は、授業内活動である多読学習を今後は授業外でも取り組みが可能な環境を整えることである。週1回の授業内だけでの取り組みでは、多読と呼べるほどの量を確保することが困難であると考えられる。そのため、図書館で本の管理をし、誰でもいつでも本が読めるようにしなければならない。来年度には、図書館にipadが約40台整備され、図書館で本を読み、ipadを利用してクイズが受けられるようになる。今後は、放課後の図書館利用から始め、その後、貸し出し可能な環境を整備し、家でも読めるように改善をする必要がある。図書館管理に移行すれば、現在は多読学習をしていない他のコース（特進コース）の生徒も自由に学習を行うことができるようになり、学校全体の取り組みとして多読学習が行えるようになる。本校での多読の取り組みはまだ2年目で始まったばかりであり、より充実した学習環境を整えていくことが必要である。

### 参考文献

- Cho, K. S., & Krashen, S. D. (1994). Acquisition of vocabulary from the Sweet Valley Kids series: Adult ESL acquisition. *Journal of Reading*, 37(8), 662-667.
- Day, R., & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Grabe, W. (1991). Current developments in second language reading research. *TESOL Quarterly*, 25(3), 375-406.
- Hafiz, F. M., & Tudor, I. (1989). Extensive reading and the development of language skills. *ELT Journal*, 43(1), 4-13.
- Hafiz, F. M., & Tudor, I. (1990). Graded readers as an input medium in L2 learning. *System*, 18(1), 31-42.

- Janopoulos, M. (1986). The relationship of pleasure reading and second language writing proficiency. *TESOL Quarterly*, 20(4), 763–768.
- Robb, T. N., & Susser, B. (1989). Extensive reading vs. skills building in an EFL context. *Reading in a Foreign Language*, 5(2), 239–251.